

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196700082		
法人名	株式会社 ひまわりの家		
事業所名	グループホーム ひまわりの家(花ユニット)		
所在地	稚内市港3丁目7番17号		
自己評価作成日	平成24年8月17日	評価結果市町村受理日	平成24年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の個性を尊重し、「目くばり」「気くばり」「心くばり」をモットーに、自宅にて生活していた時のように、生きがいのある暮らしができるようにサポートさせていただきます。食事等において、介護員が利用者様の介助をしながらの調理とならないよう衛生面には気を配り、調理専門の職員を雇用しております。また、消防等の災害時のために、毎月避難訓練を実施しております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0196700082&S&CD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年9月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<身体機能の維持・向上への取り組み>
 年々身体機能の低下が進む中で限られた残存機能を維持・向上ができるようにリハビリ体操や認知症に有効な計算問題の導入、音楽療法で懐かしい歌唱等嚙下や口腔ケアの改善に取り組んでいる。また、一人ひとりの力を活かしながら幼稚園や保育園児との交流や夏祭りを開催して、地域の人々との交流に努め緊急時に備えた協力体制の構築に取り組んでいる。

<昼夜を想定した避難訓練の継続的な実施>
 毎月、全ての職員が緊急時に速やかに対応できるように自主避難訓練を実施し、地域の人たちに協力して戴けるよう協力体制を構築している。また、地震や津波等の自然災害時の避難誘導や避難場所の確保など検討課題として採りあげ、防災対策に取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、その人らしく暮らし続けることを考えていくサービスを心がけ、事業所独自の理念を掲げ実践している。	事業所独自の理念を作り上げ、見やすい場所に掲示していると共にミーティングやカンファレンスで理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園や保育所との交流機会の他、町内会での行事への参加を求めたりと案内を出して交流に努めている。	町内会の新年会参加や事業所の夏祭りを開催して地域の人々に参加を呼び掛けたり、近隣の幼稚園児・保育園児や近所の子もたちとの交流や畑づくりや折り紙のボランティアの受け入れ等で日常的交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全職員が地域に係る大切さを認識しており、町内会にも加入して町内会主催の催しには参加をしている。運営推進委員には、地域の方にもお願いしており、認知症への理解と支援をお願いしています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員には、町内の方や家族会の方、包括支援センター長をお願いしており、報告や話し合いの他、災害時の協力依頼をしてサービス向上に心がけている。	運営推進会議を年6回開催できるように取り組み、災害時の協力体制や利用状況等を具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者への相談等、連絡をとり、指導を受けながら協力関係を築いていく。	市担当者や包括支援センターとの連携の重要性を認識し、研修会やケア会議への参加で情報交換に努め、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間に行なっている。身体拘束廃止のためのミーティングを行なっている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束廃止や高齢者虐待防止について研修会参加やミーティングを通じて、職員の共有が行われるよう努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や、虐待防止についてのパンフレットの閲覧を職員で行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている、利用者さんがおりカンファレンスやミーティング時の話し合いの中でも必要性を理解しております。関係者と連絡をとっております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、契約内容や重要事項のすべてを読み上げ、内容を理解していただいている。月一度の面会時における不安や疑問点については都度説明を行なっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族等の訴えや希望に職員が耳を傾け、るよう心がけ、不安はその都度管理者や職員が説明させて頂くなど、その他行事に際して家族会からの協力をいただいている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表すことができるように苦情受付担当者の明示や相談窓口の掲示をしている。また、家族会での意見交換で運営に反映ができるよう取り組んでいる。	昼夜を通した認知症ケアの実際や地震・津波等の緊急時の協力体制など家族等に広報する機会を持ち、実践していくことを期待します。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや毎日のカンファレンスにおいて、職員の意見や要望を聞いている。	職員の意見や要望を聞く機会を日々の業務やカンファレンスで設け、運営に反映できるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みや、他の職員の勤務状況を考慮しての勤務表を作成し、働きやすい環境をつくっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時、他施設での短期実践研修を取り入れたり、研修会参加や個人資格取得のための費用を負担している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設や、包括支援センターとの情報交換を通じて、連携をとるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が傾聴しながら、本人の不安等要望の把握に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時だけでなく自宅に訪問させて頂くこともある。入居に至った状況など詳しくお話頂いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とのお話の中で対応できるものは、早急に対応できるように対処している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の一部(皮むき)洗濯物(干し、取り入れ、選別、洗濯たたみ)掃除など、本人と他者との関係にも目配りしながら、助け合いながらの関係づくりに配慮している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にいらした時にはゆったり 自室で過ごしていただける様、お茶など 提供させて頂いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の対応を行ない、面会者の想い(知人、友人など)も聴き入れ、本人との関係づくりをさせて頂いてる。お寺や知人宅への外出支援をしている。散歩時は挨拶をしている。	友人・知人の訪問や外出支援、馴染みの商店での買い物、お寺へのお参り等馴染みの場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席替えをしたり、気の合う人との外出を計画したり、入居はじめの方の関係づくりの中に職員が係り仲間づくりの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに退去された方は、他の施設に入所。その後、施設訪問時、職員が面会をしている。			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を大切にし、訪室しモニタリングを行なっている。職員同志は、カンファレンスにて、情報交換を行なっている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握をカンファレンスやサービス担当者会議で話し合っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、他施設 サービス事業所からの情報収集に努め、家族からの情報収集も行なっている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、集計表を使い職員全員が個々の状態を把握している。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画は半年で見直しているが、状態変化があった場合は、計画の変更、立て直しを行なっている。カンファレンスを活用している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や職員のアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には随時介護計画を見直している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、毎日の様子や健康状態等、看護師・介護員が記録・記入し、職員間で共有されている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間(早朝、夜間)外泊 外出希望も本人、家族の要望を取り入れている。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ、顔なじみの方に挨拶、会話などされている。幼稚園児の訪問、ボランティアの訪問を楽しみにしている。畑仕事を一緒にされる。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時からのかかりつけ医の受診は継続している。状態の変化に対応し診察を受けている。	常勤看護師と医師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも、看護師に適時報告、連絡、相談し助言を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、面会し環境に適応出来るよう支援している。退院時には、カンファレンスに参加している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期の在り方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行ない出来る事については支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ができることを説明しながら職員間で方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	稚内消防署職員を派遣していただき、救命救急講習を開き、容態急変時の知識・手順・手技を職員が学んでいる。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行ない、1ヶ月に1回、独自に、避難訓練を行なっている。地域住民も参加する協力体制の用意をしている。	毎月、全ての職員が速やかに対応できるように避難訓練を実施し、地域の人たちとの協力体制を構築している。また、自然災害時の避難誘導や避難場所の確保など検討課題として取り組んでいる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには気を付けている。居室に入る時にはノックや声掛けを必ずしている。同じ目線で話すようにしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の暮らしの中で、本人が自宅で暮らしていた時に近づけるように、なるべく本人の話を聞き入れ、希望に近いものにできるよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課の過ごし方はあるが体調や希望機嫌等、流動的なもので本人らしい生活が送れる様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洗面・整容などの見守りを行ない、個人がいつも使用しているクリームなど使われているのを把握している。散髪、美容室も活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、行事や季節に合わせた料理を作り毎日の食事も盛り付けを工夫している。後片付けなど、職員としている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に調理の準備や盛り付け、味付けや食事を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・排泄・バイタルサインが一覧となった表があり個々の状態の把握に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のケアが習慣化されていない方もいるため、声掛けをして夕食後は義歯の方についてはお預かりして、洗浄を行なっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレまで誘導している。オムツ、パットの使用は最小限になるように努めている。しかし長年自宅、施設ですでにポータブルトイレを夜間使用している方もいられる。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に対応した運動や飲食物を提供している。便秘の、および影響については全職員が理解している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調次第で入浴出来ている。一人一人の希望を受け入れている。入浴を好まない方には、仲のいい人と一緒に入るように声かけをして、見守りしている。	入浴が楽しめるように一人ひとりの希望やタイミングに合わせている。また、拒否の強い利用者にも個々にそった支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は本人の習慣に合わせている。午後には、休息タイムを設けてお部屋で安静を保てる時間をとるなどしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの中に薬の情報提供表をいれている。全職員が把握できる様になっている。受診で変更になった場合は、記録に記載している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせた作業など、声かけを行なっている。日々の暮らしに変化あるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外出の希望があれば応じている。幼稚園の行事など見学している。また、ドライブへ行くなど、季節での外出をしている。	一人ひとりの力を活かしながら、その日の希望に沿って散歩や馴染みの店での買い物、幼稚園児や保育園児との交流や夏祭りを開催して、地域の人々との交流に努め緊急時に備えた協力体制の構築に取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、ホームで管理している。本人の希望により、必要な物があれば購入している。また外出時は、本人の希望で食べたい物を購入したりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や荷物は、きちんとお渡ししている。本人が直接電話連絡を取りたい時には、自由にすることができる。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの掲示板には、季節にちなんだ物を、借り飾っている。夏は日当たりの良い時は各部屋のカーテンで調節している。冬は湿度を保てる様に加湿器を使用している。	敷地は広く、野菜作りの菜園やビニールハウスで野菜の収穫を楽しんだり、共用空間では一人になったり、談笑ができるように椅子やソファが配置され、思い思いの時間が過ごせるように工夫している。また、平屋造りの建物で安全に配慮した構造になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の椅子など、自由に決めてホールで過ごしている。自由に居室の訪問など、利用者さん同士で行なっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が日常使用のペット・家具・家族の写真などを、もちこまれている。カーテンは防災を取り付けてある。絨毯は防災のを購入していただいている。	居室は、広く清潔感が漂い、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力や、機能低下に伴い、手すりを増設した。(入浴室・脱衣室) 入浴時に必要な物品を購入し活用している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196700082		
法人名	株式会社 ひまわりの家		
事業所名	グループホーム ひまわりの家 (鳥ユニット)		
所在地	稚内市港3丁目7番17号		
自己評価作成日	平成24年8月17日	評価結果市町村受理日	平成24年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の個性を尊重し、「目くばり」「気くばり」「心くばり」をモットーに、自宅にて生活していた時のように、生きがいのある暮らしができるようにサポートさせていただきます。食事等において、介護員が利用者様の介助をしながらの調理とならないよう衛生面には気を配り、調理専門の職員を雇用しております。また、消防等の災害時のために、毎月避難訓練を実施しております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0196700082&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年9月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、その人らしく暮らし続けることを考えていくサービスを心がけ、事業所独自の理念を掲げ実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園や保育所との交流機会の他、町内会での行事に参加するなど、事業所行事への参加を求めたりと案内を出して交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全職員が地域に係る大切さを認識しており、町内会にも加入して町内会主催の催しには参加をしている。運営推進委員には、地域の方にもお願いしており、認知症への理解と支援をお願いしています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員には、町内の方や家族会の方、包括支援センター長をお願いしており、報告や話し合いの他、災害時の協力依頼をしてサービス向上に心がけている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、市担当者への相談等や取り組みは、積極的に連絡を取るよう心がけ、指導を受けております。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会に参加するなど、緊急性がある場合を除いては、玄関の施錠は夜間だけに行なっている。身体拘束廃止のためのミーティングを行なって、職員の周知をはかっている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や、虐待防止についてのパンフレットの閲覧を職員で行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている利用者さんが入居者の中におり、カンファレンスやミーティング時の話し合いの中でも必要性を理解しております。包括支援センター職員と連絡をとって話し合いを行っております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、契約内容や重要事項のすべてを読み上げ、内容を理解していただいている。月一度の面会時において、不安や疑問点については都度説明を行なうよう心がけている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の訴えや希望に職員が耳を傾けるよう心掛け、家族からの要望や不安はその都度管理者や職員が説明させて頂くなど、その他行事に際して家族会からの協力をいただいております。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、毎日のカンファレンスにおいて、職員の意見や要望を聞いている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇希望を聞いたり、他の職員の勤務状況を考慮しての勤務表を作成し、働きやすい環境を考えたり、シフト時間の見直しなど職場環境の整備に努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時、他施設での短期実践研修を取り入れたり、研修会参加や個人の資格取得のための費用を負担している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設や、包括支援センターとの情報交換を通じて、連携をとるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が傾聴しながら、本人の不安等要望の把握に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時だけでなく自宅に訪問させて頂くこともある。入居に至った状況など詳しくお話頂いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とのお話の中で対応できるものは、早急に対応できるように対処している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の一部(皮むき)洗濯物(干し、取り入れ、選別、洗濯たたみ)掃除など、本人と他者との関係にも目配りしながら、助け合いながらの関係づくりに配慮している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にいらした時にはゆったり 自室で過ごしていただける様、お茶など 提供させて頂いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の対応を行ない、面会者の想い(知人、友人など)も聴き入れ、本人との関係づくりをさせて頂いてる。お寺や知人宅への外出支援をしている。散歩時は挨拶をしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席替えをしたり、気の合う人との外出を計画したり、入居はじめの方の関係づくりの中に職員が係り仲間づくりの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに退去された方は、他の施設に入所。その後、施設訪問時、職員が面会をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を大切にし、訪室しモニタリングを行なっている。職員同志は、カンファレンスにて、情報交換を行なっている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、他施設 サービス事業所からの情報収集に努め、家族からの情報収集も行なっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、集計表を使い職員全員が個々の状態を把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画は半年で見直しているが、状態変化があった場合は、計画の変更、立て直しを行なっている。カンファレンスを活用している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表は、毎日の様子や健康状態等、看護師・介護員が記録・記入し、職員間で共有されている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間(早朝、夜間)外泊 外出希望も本人、家族の要望を取り入れている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ、顔なじみの方に挨拶、会話などされている。幼稚園児の訪問、ボランティアの訪問を楽しみにしている。畑仕事を一緒にされる。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時からのかかりつけ医の受診は、継続している。状態の変化に対応し診察を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも、看護師に適時報告、連絡、相談し助言を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、面会し環境に適応出来るよう支援している。退院時には、情報を頂き対応している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期の在り方について、家族等の要望を聞き、話し合いを行ない出来る事については支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	稚内消防職員を派遣していただき、救命救急講習を開き、容態急変時の知識・手順・手技を職員が学んでいる。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行ない、1ヶ月に1回、独自に、避難訓練を行なっている。地域住民も参加する協力体制の用意をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには気を遣い、利用者様の話しをまず聞くこととし、居室に入る時にはノックや声掛けを必ずしている。同じ目線で話すようにしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の暮らしの中で、本人が自宅で暮らしていた時に近づけるように、なるべく本人の話しを聞き入れ、希望に近いものにできるよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課の過ごし方はあるが、体調や希望・機嫌等、流動的なもので本人らしい生活が送れるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洗面・整容などの見守りを行ない、個人がいつも使用している物を使われているのを把握している。本人の希望で、散髪、美容室も来所して頂き活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、行事や季節に合わせた料理を作り毎日の食事も盛りつけを工夫している。後片付けなど、職員としている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・排泄・バイタルサインが一覧となった集計表があり個々の状態の把握に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のケアが習慣化されていない方もいるため、声かけをして夕食後は義歯の方についてはお預かりして、洗浄を行なっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレまで誘導している。オムツ、パットの使用は最小限になるように努めている。しかし長年自宅、施設ですでにポータブルトイレを夜間使用している方もいられる。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に対応した運動や飲食物を提供している。便秘の、および影響については全職員が理解しております。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調次第で入浴出来ている。一人一人の希望を受け入れている。入浴を好まない方には、仲のいい人と一緒に入るように声かけをして、見守りしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は本人の習慣に合わせている。午後には、休憩タイムを設けてお部屋で安静を保てる時間をとるなどしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの中に薬の情報提供表をいれている。全職員が把握できるようになっている。受診で変更になった場合は、記録に記載している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせた作業など、声かけを行なっている。日々の暮らしに変化あるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外出の希望があれば応じている。幼稚園の行事など見学している。また、ドライブへ行く等季節での外出をしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、ホームで管理している。本人の希望により、必要なものがあれば購入している。また外出時は、本人の希望で食べたい物を購入したりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や荷物は、きちんとお渡ししている。本人が直接電話連絡をとりたい時には、自由に行うことができる。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの掲示板には、季節にちなんだ物を、借り飾っている。夏は日当たりの良い時は各部屋のカーテンで調節し、冬は湿度を保てる様に加湿器を使用している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の椅子など、自由に決めてホールで過ごしている。自由に居室の訪問など、利用者さん同士で行なっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が日常使用のペット・家具・家族の写真などを、もちこまれて自由に飾り付けをするなどしている。カーテンは防災を取り付けてある。絨毯は防災のを購入していただいている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力や、機能低下に伴い、手すりを増設した。(入浴室・脱衣室) 入浴時に必要な物品を購入し活用している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひまわりの家

作成日：平成 24年 9月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	17	利用者様本人が考える支援と、家族が希望としている支援で、利用開始の対応について苦慮することがある。	本人と家族のサービス提供計画について、早急に対応できるよう心がける。	利用者様の希望や意向を、面会時や電話などで報告し、ご家族にも考えて頂きお互いが納得できる支援をしていきたい。	12ヶ月
2	49	利用者様本人の外出したい場所は、自宅であることが多いが、家族の意向との隔たりがある。	利用者様のお気持ちを考え、希望などを同じ目線で傾聴し、その方の心情を察した会話をする。	毎月一回の面会は鉄則として家族に理解いただき、ご家族と協力して外出の機会を設けて頂くなどしたい。	12ヶ月
3	33	重度化した場合について、事業所としてできることを十分に説明しながら方針を、関係者とともに支援したいと考えるが隔たりがある。	利用者様の健康状態や、病院での受診状態を常に連絡を取ることをこころがける。	グループホームとして、重度化した場合の支援の在り方を話し合いを通して、できる要望については支援していく。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。